

参加型パフォーマンス 環ROY - Fine Game

と ば

Places of
の
Words

展覧会「ことばのいばしょ」では、SCARTSコートにて、折笠良さんの映像作品を上映しています。一つは、詩人・石原吉郎の同名の詩を題材に、絶え間なく寄せる波に刻んだ文字の躍動によって一遍の詩の世界を表した《水準原点》。もう一つは、ラッパーの環ROYさんの同名楽曲のミュージックビデオ《ことの次第》です。《ことの次第》は環さんが折笠さんにオファーし、環さんの筆跡を発想源に制作されたというアニメーション。本展のオープニングイベントとして、環さんをゲストに迎え、参加型パフォーマンス「環ROY - Fine Game」が開催されました。その様子をレポートします。

8月22日(土) 14:00~15:30 SCARTSコート

テキスト…松田仁央

撮影…リョウイチ・カワジリ



環ROYさんはパフォーマンスやインスタレーションといった幅広い領域で活躍するラッパー。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大勢の観客を入れたライブパフォーマンスを行うことが難しい中、安全性を確保しながら、少人数で行なう必然性のあるものとして、環さんがこの場のために考えてくれたのが「環ROY - Fine Game」。参加者が言葉の意味や音・リズムによってイメージを広げながら、連想ゲームのように言葉をつなげていくワークショップです。参加者には、ゲームのルールが書かれた環さんからの「指示書」が事前に渡されています。さて、どんなパフォーマンスが立ち上がるでしょうか？

40名ほどの観客が見守る会場中央には椅子が円形に配置されており、マイクを手に座る参加者はやや緊張した面持ち。SCARTSスタッフからの「開始時刻までしばらくお待ちください」というアナウンスに対して、環さんは「待つってほどのことでもないですよ〜」と力の抜けた返し。世間話の雰囲気、参加者へ「今朝、何時に起きました？」と振っていきます。「7時です」「6時です」と会場内にポツポツと言葉が発せられ、朝食も一通り聞いたところで、開始時刻の14時に。さあ、いよいよスタートです！

スコーン、酢昆布、都こんぶ、利尻島、離島、伊藤忠、商社、勝利、優勝、友情、絆、
歪な絆、静かに歪になっていく絆、怒り、悲しみ、チジミ、しじみ…

参加者が言葉をつなぐ間に環さんもランダムに加わりながら、テンポよく進んでいきます(この後も、どの言葉の連なりが環さんによるものか、想像しながら読んでみてください)。開始早々、速いスピードで参加者から繰り出される言葉の数々に、環さんも「結構みんな瞬発力がありますね!」と驚きの様子。まだまだここから、時計回りに言葉をつなぎ、一巡、二巡、三巡、四巡…

火星、水星、油性絵の具、マッキー、ポッキー、ラッキーパンチ、グーパンチ、
今日ランチ抜き、不健康、不検討、逃走、糖質、上質…



言葉に詰まったときは「バス」もあり。環さんは参加者や観客の間を移動しながら、参加者から発せられた言葉に時折質問を挟みつつ、不意に言葉を拾ってイメージをどんどん飛躍させながら言葉をつなげ、流れを攪拌していきます。

イーハトーブ、バス、あー君のバットは職人が作ってくれてすごくあの一、
いいなー飛ぶ、いいなーよく飛ぶ、投げる、イチロー、浪人生、
受験、再受験、主権国家、主権国家崩壊、国民主権、民主主義、社会主義…

沖縄、行ってみたい沖縄、玉城デニー、環ROY、ロイヤルストレートフラッシュ、
ポーカー、ジョーカー、ソーダ、コーラ、黄砂、中国から黄砂、ポーラーベア、ベア、
くまのプーさん、高木プーさん…

気づけば、あっという間に40分ほどが経過し、「そろそろまとめていきますね」と環さん。参加者の「介護士」という言葉から、次のように言葉をつないでいきました。

介護、蚕、紡ぐ糸、蜘蛛の糸、龍之介芥川、今日の朝食コーラ、俺の朝食ウイダーinゼリー…(略)…
民主主義、社会主義、プーチン、トランプ、カード、配る、ジョーカー、冗談と遊びの間、
たらい回しにされてる1時間半、右、左、行ったり来たり、時計回り、つながっていく、みんなで遊び、楽しかった。
ありがとうございました。

セッションで出てきた言葉を拾いながら、絶妙に韻を踏みつつリズムカルに紡がれていく言葉の波が、圧巻！終わった瞬間、会場から大きな拍手がわき起こりました。すごい！



環ROY

続いて、参加者を入れ替え、飛び入り参加も交えた第二セッションがスタート。朝食の内容と名前を順に言っていく形でゆくりとスタートした第二セッションは、速いスピードで短く言葉をつないでいった第一セッションに比べると、参加者と環さんが会話をするように言葉をつなぐ、ゆったりとした雰囲気。

少年ジャンプ楽しい、ハンターハンター、休みすぎ、空白、白のイメージ、白と黒、お葬式、
20デニールのストッキング、透けている、男にはわからないストッキングの話、
男にもわかるストッキングの話ありますか…

フルーツサンドのお店が大通にあるらしいけど行ってみたい行ったことない、
さえらもいいけどサンドリアもいいよ、さえらしか行ったことない、さえら知らない、全然知らない、
フルーツサンド食べたことない、フルーツサンド食べたことあるメルヘンな奴、
でも食べてみたい結局買うのはたい焼き、タイ、キックボクシング、痛い、いろいろ痛い、
大人になってから転ぶとスグー痛い…

終わりの時間が近づいた頃、参加者の言葉を受けて「未来は明るいつて言われてもね、むずいっすよね」と話しかけるように、ゆっくり言葉をつなぎ始めた環さん。話し言葉は次第に韻を踏み、これまでに出てきた言葉がつなぎ合わされ、その度に物語が立ち現れては消え、言葉がリズムに乗り、速度がぐっと上がり、空間と時間の密度がぎゅっと濃縮し…という、素晴らしいラップを披露してくださいました。すごい…!

終了後、参加者からは「格好良く韻を踏んでみたかったけど、難しい!」「不意に変わってゆく言葉にたじろぎつつ、つないでいく楽しさがたまらなかった」「想像と違って、勝ち負けのないゲームだった。楽しいものが生まれたり生まれなかつたりしながら、言葉を何周もつなぎ続ける時間が印象的でした」という声が。観客の方々にも感想を聞いてみたところ、「どんな言葉が出てくるか予想できないから、最後まで面白く観ることができました」「その人の癖が見えて楽しかったです」という声が返ってきました。

実は書き手の自分も、第二セッションへ飛び入り参加した一人。参加者と観客の両方を体験して、人の発する言葉からイメージした言葉をつなげていくという行為を、延々と観ていられるし、続けられるということに驚きました。普段自分が接する「伝えるための言葉」と違って、この場で発せられた言葉は無目的のだけれど、ときに予想外のイメージの飛躍を生んだり、音楽的になったりする。そういう言葉のための「いばしょ」に、面白さを感じました。このゲームは環さん曰く「家でもできる」ので、ぜひ家族や友達と試してほしいです。回数を重ねるごとに、韻をふむなど技術的な高みへの欲が出てくるはず!



環ROY | Tamaki Roy

1981年、宮城県生まれ。これまでに5枚の音楽アルバムを発表、国内外の様々な音楽祭に出演。その他、パフォーマンスやインスタレーション、映画音楽、広告音楽などを制作。近年の作品に、パフォーマンス『ありか』/パリ日本文化会館(20年)、展示音楽『未来の地層』日本科学未来館(19年)などがある。MV「ことの次第」が第21回文化庁メディア芸術祭にて審査委員会推薦作品へ入選。
<http://www.tamakiroy.com>

松田仁央 | Matsuda Nio

ライターとして札幌の芸術文化を中心に取材・執筆。2017~2019年にはEU・ジャパンフェスト日本委員会やボランティア・ブリッジ・プロジェクトの助成を受け、シビウ国際演劇祭や欧州文化首都マテラでの数週間のボランティア・プログラムに参加。2019年5月には「札幌市こどもの劇場やまびこ座」プロデュース人形劇『OKHOTSK オホーツク 終りの楽園』東欧3都市ツアーに同行し、取材と通訳補佐等を行う。NPO法人S-AIRでの2年間のアシスタント・ディレクター業務を経て、2018年からウイマム文化芸術プロジェクト事務局。